

【企画委員会報告】

2023 年度オープンキャンパス報告

滋賀医科大学医学部附属病院 高橋美香(大5回生)

杉江恵太(大8回生)



2023年7月8日(土)と8月5日(土)に開催されたオープンキャンパスには、滋賀医科大学医学部附属病院から学友会の協力として参加しました。

オープンキャンパスの協力を依頼されたときには、何をすればいいのだろうとドキドキしながら、日程の希望調査に回答したのを覚えています。滋賀医大には本学卒業生が技師の約半数にあたる15名在籍しており、オープンキャンパス両日合わせて9名の技師が協力してくれました。卒業してまだ年数が浅い方たちも含め大学に協力的な方が多く、いつも感心させられます。

当日は早めに集合をして、スケジュール説明を受けました。打ち合わせのなかにも、大学関係者皆様のオープンキャンパスにかける思いを感じ、その一助になりたいと身が引き締まる思いでした。また、在学生のスタッフは相談員や参加者誘導などを手際よくされており、感心させられました。

学友会としての役割は、野間理事(企画委員)による「放射線技師の仕事紹介」の講義と、各モダリティに分かれて仕事紹介の実演等を行いました。

○「放射線技師の仕事紹介」の講義

野間理事の講義では、「診療放射線技師の魅力」をテーマに、診療放射線技師がどういった仕事に携わるのかをモダリティ毎にわかりやすく講義されました。実習中の学生が写っている写真もあり、実習のイメージもできたと思います。また、各モダリティのラウンドで見ることのできない、放射線治療に重点をおいて最先端の技術を紹介され、憧れを抱いた参加者も多かったのではないのでしょうか。講義後の質疑応答では、勤務体系や装置更新に関する質問があり、具体的に将来をイメージされていて、興味深く感じました。

○モダリティ紹介

「一般撮影」

一般撮影に関して、検査や装置等の説明を行った後、ファントムを撮影して画像が出てくる様子を見てもらいました。また、患者役と技師役に分かれて胸部撮影検査の流れを実演し、仕事風景を感じてもらいました。最後に、装置を動かしたり、鉛エプロンを着てもらった



りと、参加者に体験してもらいました。

「マンモグラフィ」

乳がん罹患率の高さや早期発見の重要性を説明し、そのためにマンモグラフィは欠かせない検査ということを知ってもらいました。その後、トレーニング用ベストを着用して実際どのようにポジショニングをするのか見てもらい、患者さんとの距離が近いこと、痛みを伴うこと、協力してもらうためにコミュニケーションが最も大事なこと、などをお伝えしました。また、自分の技術が写真に直結するという部分で、やりがいがあることも分かってもらえたかと思います。

「CT」

CT 検査について簡単に説明を行い、実際に全身ファントムを撮影して装置の動きや出力される画像を見てもらい、一連の検査の雰囲気を感じてもらいました。また、実際の症例の 3D 画像を用いて画像の見え方を説明し、撮影だけではなく画像再構成などの仕事もあることを紹介しました。

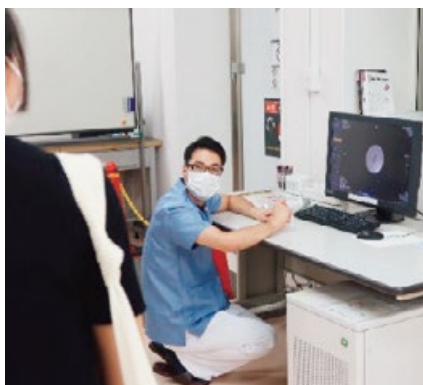
「MRI」

診療放射線技師が携わる仕事の中で放射線を扱わず、磁力を利用して画像にするなど MRI 検査の特徴を説明しました。

また、クリップを用いて磁性体持ち込みによる吸着の危険性を実演し、その対策方法などを紹介しました。実際の撮像時の騒音の大きさを聞いてもらい、撮像したフルーツを用いて画像の説



明等を行いました。



明等を行いました。参加者の人数について、7月8日は28組52名、8月5日は66組108名でした。高校生からのアンケートでは「診療放射線技師とはどのようなものか、仕事内容はどんなものかが知れて良かったです。」「講師の方から実際の話しを聞き、大学の雰囲気や放射線技師の仕事内容を知れて、とても良かったです。」「MRIなどを身近で見ることが出来て良かった。」「最新の機械もそろっており、学友会の方の説明も分かりやすく参考になりました!」との感想をいただきました。

〔滋賀医科大学医学部附属病院スタッフ〕

野間和夫(理事、短2回生)、井口治巳(短3回生)、杉山淳子(理事、短12回生)、阪西克哉(大4回生)、高橋美香(大5回生)、東前翔馬(大5回生)、杉江恵太(大8回生)、三好光(大12回生)、大鶴慎之介(大13回生)

以上